売薬の意匠あれこれ

〈その16〉
乗り物おもちゃ「車・船」

北多摩薬剤師会会長　平井 有（ひらい・たもつ）

前号では、昭和40年（1965）頃から売薬の景品（販促品）に登場したプラスチックモデルを紹介しました。今回は、当時最先端だったプラスチックモデルが登場する以前に主流だったおもちゃの景品の中から「車」「船」「飛行機」を2回に分けて紹介します。今ではこのような景品は登場しなくなりましたが、製品のピーアールだけでなく、子どもたちに来局の楽しみを与え、固定客創出のきっかけになっていました。

主力商品名を社名にしている宇津救命丸株式会社は、400年以上もの歴史を持つメーカーです。「宇津救命丸」は、小児の夜なき、ひきつけ、疳（かん）などに用いる小児五疳薬で、江戸時代には「金匱（きんき）救命丸」の名前で気付け薬、道中薬（旅行の際に急病に備えて持参する薬）として大人に用いられました。子ども向けの販促品を数多く作りましたが、関西では「樋屋奇応丸」（樋屋製薬）の方が知られています。

武田薬品工業株式会社は、天明元年（1781）に初代の武田長兵衛翁が薬種商を開業したのが始まりです。2017年、「アリナミン」「ベンザ」をはじめとするOTC薬事業は、吸収分割により子会社の武田コンシューマーヘルスケア株式会社が継承しています。

三共株式会社は、明治32年（1899）に創業され、初代の会長はアドレナリン抽出の成功で世界的に知られる高峰譲吉翁でした。第一製薬株式会社は、大正4年（1915）の創業。平成17年（2005）、三共株式会社と第一製薬株式会社が経営統合し、第一三共株式会社となり、さらに両社のヘルスケア事業（OTC薬）の統合を目的とした新会社の第一三共ヘルスケア株式会社が設立されました。

プラスチック製/「ハイグレラン錠」（終売）「アクデミンカプセル」（終売）「ドキシン錠」、武田薬品工業（現 武田コンシューマーヘルスケア）

プラスチック製/「アリナミンA」「ベンザエース」「ドキシン錠」、武田薬品工業（現 武田コンシューマーヘルスケア）

（奥）ブリキ製/「宇津救命丸」、宇津救命丸
（手前）ブリキ製/「ミネビタールゴールド」（終売）、三共（現 第一三共ヘルスケア）

ブリキ製/「ペル」（終売）、第一製薬（現 第一三共ヘルスケア）

プラスチック製/「宇津救命丸」、宇津救命丸

プラスチック製/「宇津救命丸」、宇津救命丸